



IT活用力セミナーについて

第4次産業革命による技術革新の進展により、あらゆる産業において、IoT (Internet of Things)、ロボット、ビッグデータ、AI、RPA (Robotic Process Automation) などのIT技術の利用が進められる中、中小企業がIT技術を活用した事業展開を図るためには、全ての従業員が今後標準的にIT理解・活用力(*)を身につけることが求められています。

このため、当機構では、全国の生産性向上人材育成支援センターにおいて、中小企業等で働く人々を対象としたITの活用や情報セキュリティ等のIT理解・活用力を習得するための訓練「IT活用力セミナー」を幅広く民間機関等の教育資源を活用して実施します。

(*) IT理解・活用力習得訓練とは、現在入手・利用可能なITを使いこなすことにより、企業・業務の生産性向上やビジネスチャンスの創出・拡大に結び付けることができる土台となる能力のことをいい、いわゆるIT企業で働く者だけでなく、ITを活用する企業 (ITのユーザー企業) で働く者を含め、全てのビジネスパーソンが今後標準的に装備することを期待されるものをいいます。

1 訓練の概要

(1) 訓練計画数 (全国)

'18年度:4,000人、'19-'20年度:各13,000人 (3年間、計3万人)

(2) 対象者

中小企業や製造現場等で働く在職者 (事業主からの指示を受けた者)

※初任層 (中高年等の学び直しを含む。) から中堅層 (応用操作が可能な者) までを対象

(3) 訓練実施方法

オープンコース (公開型訓練により幅広い企業から受講者を募集)

(4) 訓練時間数

3時間~18時間 (訓練コースごとに異なる)

(5) 受講料 (税別・1人あたり)

2,000円~5,000円 (訓練コースごとに異なる)

(6) 主な訓練分野、訓練コース (全38コース ('18年7月現在))

習得段階	ステップ1 (認知・基本操作)	ステップ2 (知識・応用操作)	ステップ3 (高度活用)
IT理解	ITに関する基礎知識 ・つながる業務への理解 ・ネットワーク管理の基礎	ITに関する専門知識 ・RPAによる業務の自動化 ・業務とデータの流れの見える化	
ITスキル・活用	ITツールの基本操作 ・表計算ソフトの業務活用 ・SNSを活用した情報発信	ITツールの応用操作 ・ピボットを活用したデータ分析 ・伝わるプレゼン資料作成	ITツールの応用演習 ・表計算ソフトによる統計データ解析 ・DBソフトを活用したデータ処理
IT倫理	IT倫理の基礎知識 ・ITに関する法制度理解 ・情報セキュリティの必要性	IT倫理の専門知識 ・事例から学ぶインシデント対応 ・情報漏えいの原因と対策	

※初任層を対象にしたステップ1から中堅層を対象にしたステップ3まで、地域ニーズを踏まえて実施

(7) 実施機関 (委託先)

訓練は、民間教育訓練機関等 (専門・各種学校、委託訓練・求職者支援訓練実施機関、その他研修機関等) に委託して実施 (生産性向上支援訓練との関連性の高い訓練コース (業務のIT化等) については、同訓練の実施機関も活用)

2 訓練実施の流れ



訓練分類ごとの3つの目的

A:IT理解

世の中にどのようなITがあり、どのような機能・仕組みを有し、どのような場面で活用されているかについて理解します。

B:ITスキル・活用

企業・業務の課題解決に有用なITを選定し、そのITを操作して目的にかなう情報を取得・分析・表現し、課題解決につなげるスキルを習得します。

C:IT倫理

ITを安全に活用するための情報セキュリティやコンプライアンスの知識を習得します。